

板橋区 平和祈念マップ



平和祈念像/北村西晋作

東京都板橋区

板橋区平和都市宣言

世界の恒久平和を実現することは、人類共通の願いである。しかしながら、現実には核軍拡競争が激化の様相を示し、人類の滅亡さえ危惧されることである。われわれは、世界で唯一の核被爆国として、また、日本国憲法の精神からも再び広島長崎の惨禍を絶対繰り返してはならないことを強く全世界の人々に訴え、世界平和実現のために積極的な役割を果たさなければならぬ。

板橋区及び板橋区民は、憲法に高く掲げられた恒久平和主義の理念に基づき、緑豊かな文化のまちづくりを目標とするとともに、非核三原則を堅持し、核兵器の廃絶を全世界に訴え平和都市とすることを宣言する。

昭和60年1月1日

軍工場関連

明治初期、現在の板橋区加賀には藩府の計画を継承して板橋火薬製造所が創られ、赤羽に大薬庫が置かれた。板橋火薬製造所は拡張と改組の末、終戦時は東京第二陸軍砲兵廠（二造）の本部と板橋工場になっていた。

日露戦争の際、板橋火薬製造所に近接して、火薬を砲弾や弾に加工する十餘銃包製造所（後の一造）や、東京兵器支廠の板橋兵器庫（後の東京兵器補給庫）などが置かれ、周辺は「軍都」化していった。なお同じ頃、板橋水雷火薬庫が板橋火薬製造所の北に隣接して設けられたが、徐々に火薬製造所の敷地となった。赤羽駅付近から引込線が敷かれた他、軍工場や建物間には独自の電気軌道線が敷かれており、その構内①やトンネルの側壁⑦が今も残っている。



①電気軌道構内

日中戦争開始後には、一造練馬倉庫が連られ、東上線からの引込み線も敷設された。また、急増する工員のために寮も建設され、一造寮として近代台宿舎②、板橋宿舎⑦、大山宿舎②、橋寮宿舎②⑦、護正寮宿舎②⑧が、二造寮として興和寮宿舎④が区内に置かれた。こうした関係者を取り締まるための警兵隊もあり、当時の門柱②も残っている。



②陸軍消火栓



③陸軍用地標石

二造の跡地には、今もなお、当時の陸軍消火栓③、軍用地と民用地を区分する標石④、⑤、⑥）や塀④、銃庫を防ぐための土塁②等が一部残る。愛読辞⑧、理工学研究所④、野口研究所⑩、東京家政大学⑪、愛徳技専門学校⑫などは、軍工場時代の建物を今も利用している。



④土塁



⑤二造板橋工場225号屋など



⑥二造板橋工場36号屋



⑧加賀一丁目緑構緑地レンガパーク

火薬研究所と弾道管

現在の野口研究所の場所は、戦時中火薬研究所となっており、二造などで造られた弾薬の性能実験がおこなわれた。現在の構内には当時の火薬研究所⑩などいくつかの建物や土



⑨二造板橋工場23号屋（火薬研究所）など

空の遺構が残されているが、その中でも代表的なものは、弾道管と呼ばれる弾薬の性能を、実射し検査する十餘メートルの円筒であり⑨、区立加賀公園の方へと伸びている。弾道管は二本あり、そのうち一本は加賀公園内の日加賀沼江戸下敷敷内にあった砲山内部に向かっていて、その正確さ⑤が公園内に確認できる。



⑨弾道管



⑩弾道管構内

陸軍工学校分校記念碑

同校は造船の中堅技術者養成を目的とし、日露戦争後に砲兵工学校分校として設けられた。関係者は分校を「倭ヶ丘」と通称した。なお、同校敷地は終戦前には一造板橋宿舎となり、戦後板橋第五中学校となった。加賀公園内にその記念碑⑬がある。

庄磨機圧縮記念碑

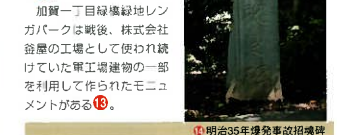
幕末に沢部左衛門が欧州へ留学し、技術とともに日本に輸入した庄磨機の部品で作られた記念碑⑭。黒色火薬の製造に用いられていた。水筒⑮はこうした庄磨機の動力として使われた水車を回すために用いられた。



⑬庄磨機圧縮記念碑

明治35年爆発事故招魂碑

火薬工場火災の際、消火活動中に爆発が起こり殉職した職員と職工を慰霊するもの⑰。



⑰明治35年爆発事故招魂碑

区域の防空体制

昭和19年12月に、高射砲第一師団が編成され、東京都北部には高射砲第一六聯隊が置かれた。区内には前野高射砲陣地⑱と、赤塚高射砲陣地⑲があり、それぞれ6門の高射砲が備えられていた。また、小豆沢⑲と新河岸⑲には照空灯があり、夜間上空の敵機を照らし出した。加えて四葉には敵機の飛行音を感知する聴音機⑲が置かれた。なお、茂呂には電波小隊陣地があり、電波探知機（レーダー）が設置されていた⑲。成増八丁原には第一六聯隊の本部⑲が置かれていた。

平和祈念像

板橋区平和都市宣言告示後の昭和62年、区役所新庁舎落成に併せて設置された。長崎平和祈念像を作成した北村西望の遺作⑲。



⑲平和祈念像

金井窪駅

周辺の都市化に伴い昭和6年開業するが、空襲で焼失し休業となる。東上線では他にも被災休業した駅は多いが、戦後復旧せず廃止になったのは金井窪駅だけだった⑲。

空襲犠牲者供養の地蔵

昭和20年4月13日、東京陸軍造兵廠を目標としたB29による空襲があり、区内では板橋・志村方面が大きな被害を

受け、区民約4万5千人が被災した。旧板橋町では、区役所・養育院・金井窪駅などが焼失した。この八面の地蔵は、地蔵が安置されている大山金井町で爆弾の直撃を受けて亡くなった9人の人びとを供養するために建てられたもので、平成7年度に板橋区登録記念物となっている⑲。



⑲平和の灯でニュメント

横穴式防空壕

区内には、武蔵野台地の崖地が展開しており、その地質が粘土層の赤土（関東ローム）で粘着力が強いことから、支保工なしで築壁の横穴式防空壕を掘ることが可能となっていた。そのなかには、総延長が100mを超える大規模な防空壕もあり、多数の人員を相対同時待避させ、必需品を貯蔵するように計画されていた。区内には、100mを超えるものとして、向原⑲と志村⑲のものが確認されるが、それ以下の規模のものを含め、終戦後から埋め戻し事業が行われて

空襲犠牲者供養の地蔵（平安地蔵）

昭和20年6月10日の空襲は、270名余が亡くなり、約2,400名が被災した。そして、この時の死者数は区内最大のものとなっている。南常盤台の天祖神社には、この頃に爆弾の破片によって傷ついた狛犬⑳がある。この空襲は中島飛行機武蔵製作所を第一目標としていたB29爆撃機が、目標を確認できず、そのかわりに上板橋地域を襲撃したものと想定される。平安地蔵は被害者の三回忌にあたり、地元の人々が二体の地蔵を造立したことに始まる。平成7年度に板橋区登録記念物となっている㉑。



⑳爆弾した狛犬



㉑空襲犠牲者供養の地蔵（平安地蔵）

防空緑地

空襲による延焼を防ぐため昭和16年度に策定、翌年に着工された。後に城北中央公園となった㉒。

平和の灯モニュメント

広島原爆死没者慰霊碑を模したもの㉓。平成4年、広島市の「平和の灯」と長崎市の「耀いの火」を合わせた灯火が点火された。



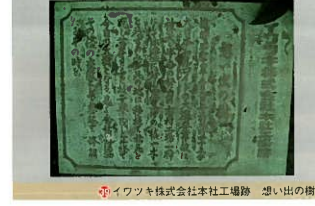
㉒平和の灯でニュメント

民間軍需工場

関東大震災後の都市計画で危険物を扱う工場の建築が認められていた志村地区には、特に海州争奪戦（昭和6年）後工場の進出が続いた。また、東京兵器支廠（補給庫）は軍需品納入に際しての検査を行っており、近接する志村地区はその点でも軍需生産に好都合だった。戦時体制が強化される中で、こうした工場の多くは軍の管理工場や監督工場に指定された。昭和19年には、運動需要に応えるため都府が下板橋から志村坂上まで延伸している㉒。

イトワキ株式会社本社工場跡 想い出の樹

昭和14年、多くの死傷者を出したセルロイド工場爆発事故の際、被災したイトワキ株式会社が焼け残った樹を、再建した本社工場に移植したもの、由来を記した銘文がある㉓。



㉓イトワキ株式会社本社工場跡 想い出の樹

一造・二造住宅地

当地域は、日本住宅営団が、造船廠の職員のために造成した住宅地である。徳丸三丁目8番付近㉔と徳丸四丁目24番付近㉕、赤塚一丁目3番付近㉖に所在していた。

平和観音

当家は、赤塚の成田山不動大教会境内の平和観音堂に安置されている。昭和27年5月に第二次世界大戦の終結と国交回復のために、日本と日連合国48ヶ国との間に結ばれた、通称サンフランシスコ講和条約の発効を記念したもので、平和を願って造立された観音像である㉗。

加賀五自治会（肥田一穂氏寄贈）文書

戦後二造跡に入居した企業などが結成した五自治会の活動記録。米軍による再稼取り止運動や、貴資料をめぐっての裁判など旧軍用地の戦後をつぶさに記録する㉘。区立郷土資料館所蔵。区の登録有形文化財。

成増陸軍飛行場

米軍機の来襲から東京を防衛するため昭和18年に設置。戦後は米軍特務隊向け住宅グラントハイツとなる。その建設の資料遺構に使われたのが、一造練馬倉庫の引込線を延伸した箇志（ケシー）線である。



空襲により炎上する志村国民学校（「板橋の平和」より）

